

犯罪被害統計及び対策について

30. 1. 29

在イタリア日本国大使館

【趣旨】

実際の邦人被害状況を分析することにより、現状に則した犯罪対策の資とするもの。

目次

- 1 集計データ
- 2 データ分析
 - (1) 月別発生件数
 - (2) 月別発生場所
 - (3) 場所の類型別 (分類グラフ)
 - (4) 地点別 (プロット図)
 - (5) 被害形態
- 3 犯罪対策 (+トピック)
- 4 まとめ

集計データ（前提）

1 対象データ

当館へ提出された被害届：225件

2 対象期間

平成28年12月～平成29年11月（1年間）

3 対象場所

①ローマ、②フィレンツェ、③ナポリ

4 被害の種類

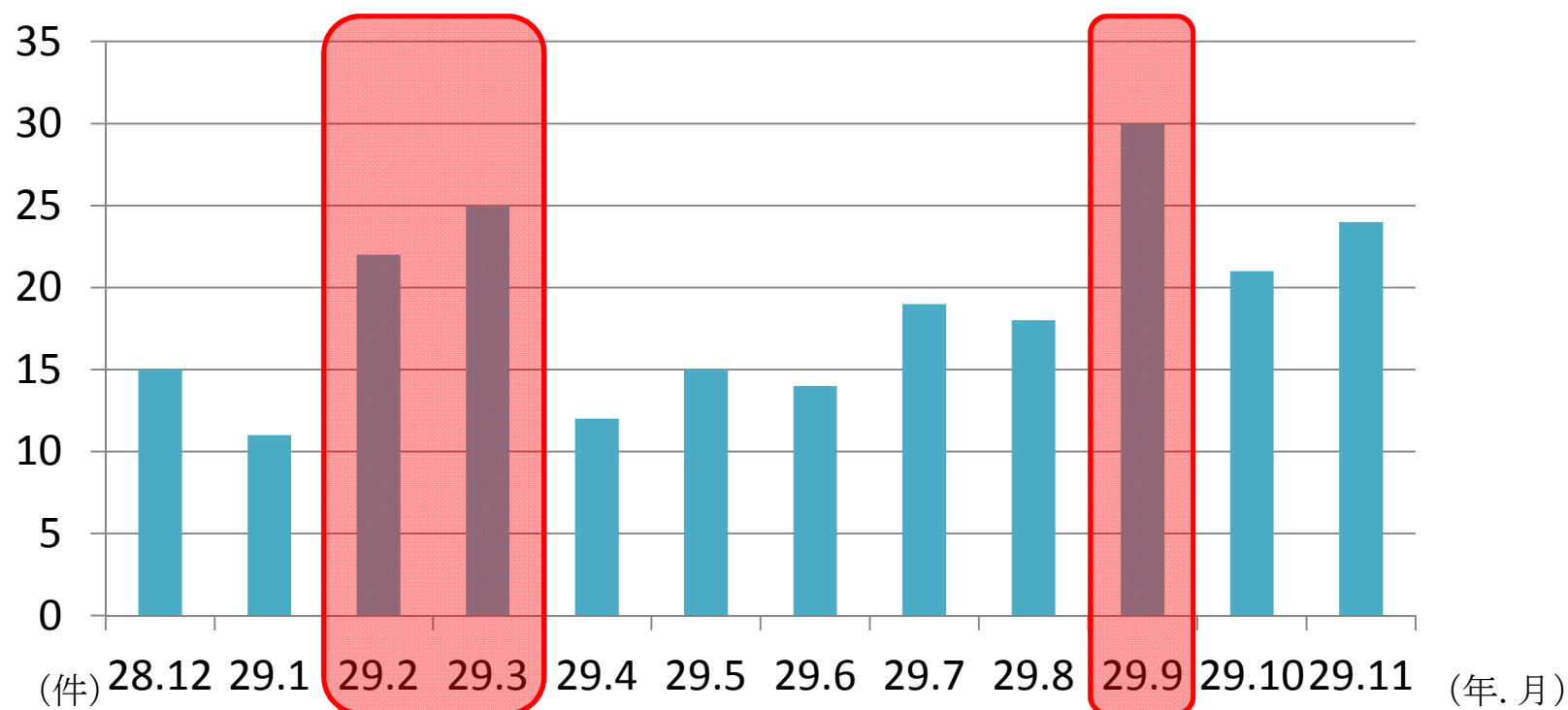
スリ、置き引き、ひったくり、空き巣、車上荒らし



認知されていない被害あり

【理由】被害が軽微な場合（少額の現金のみの窃盗被害）など、当館に届け出がなされないことがあるため

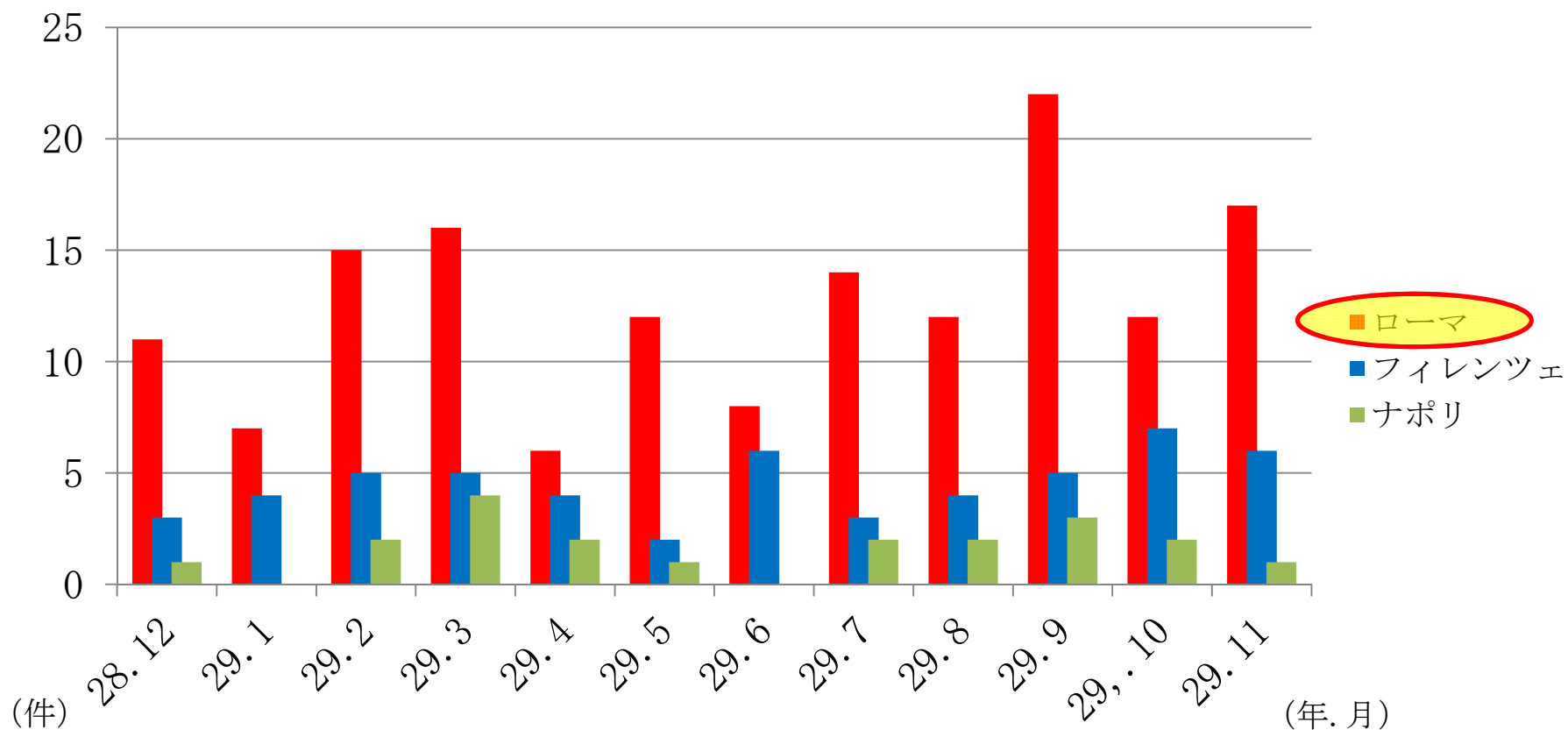
月別発生件数



旅行シーズンの被害者数増加が顕著

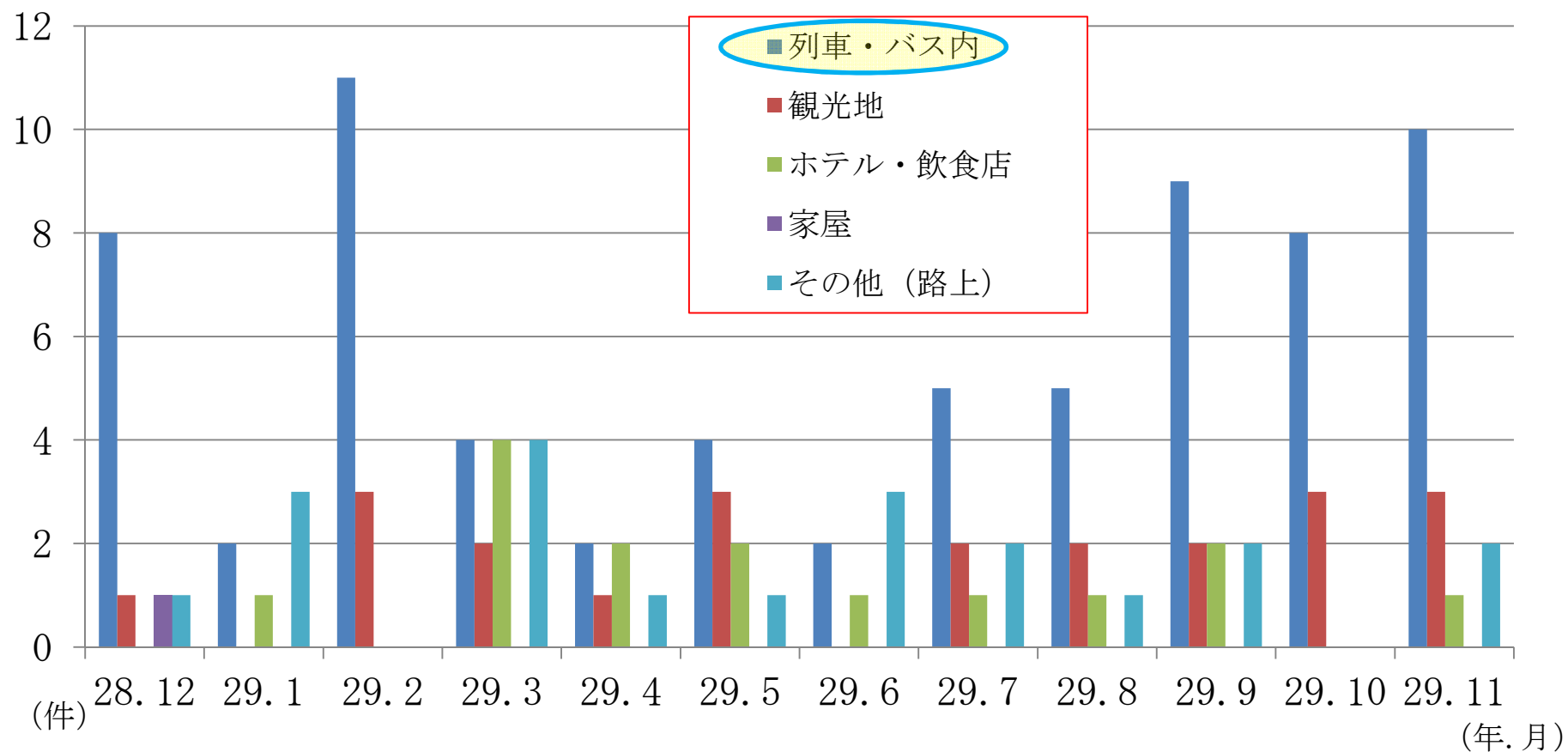
【理由】旅行者数の増加（卒業旅行 etc.）

月別発生場所



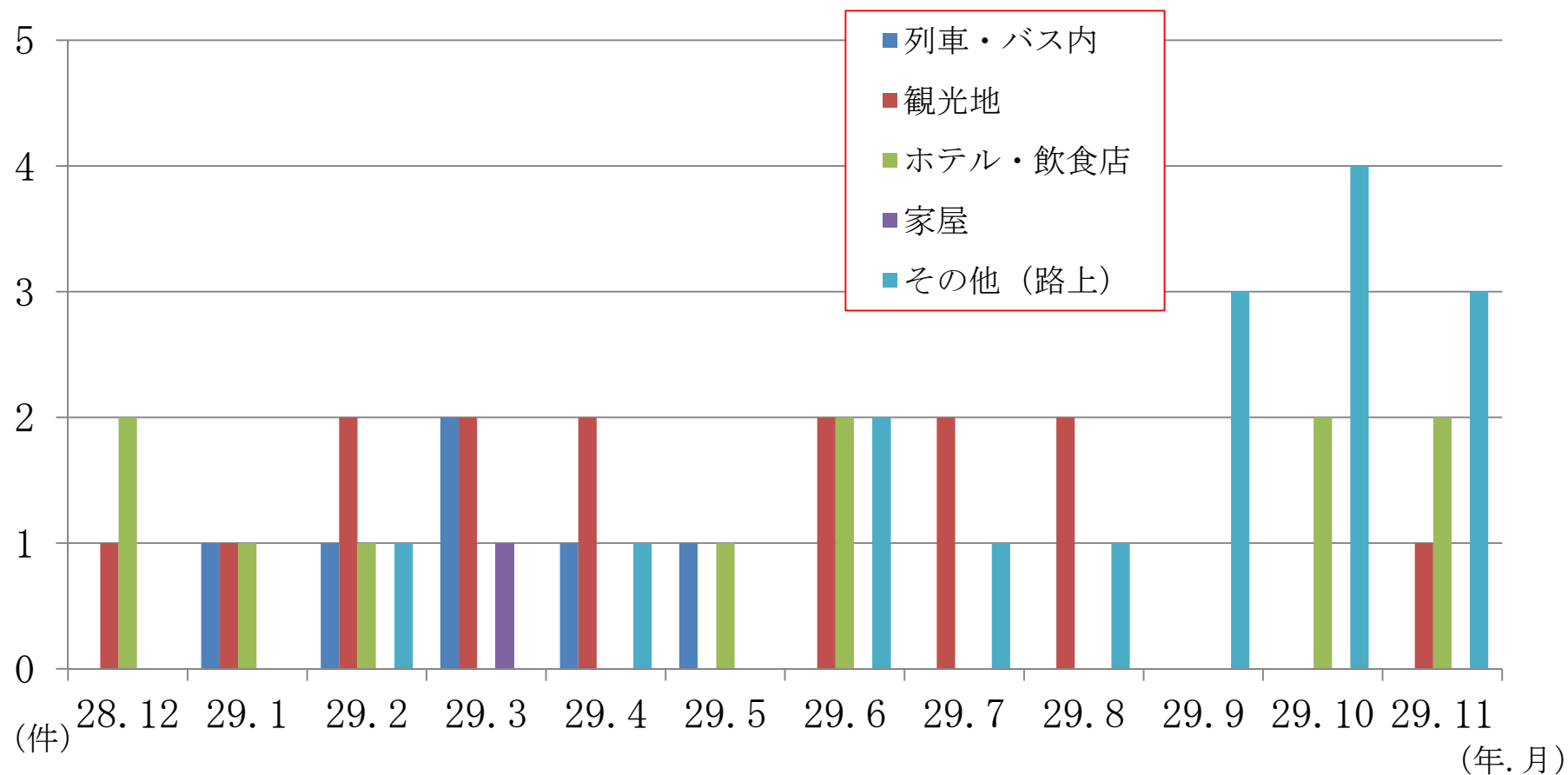
いずれの時期においてもローマでの被害が突出

場所の類型別【ローマ】



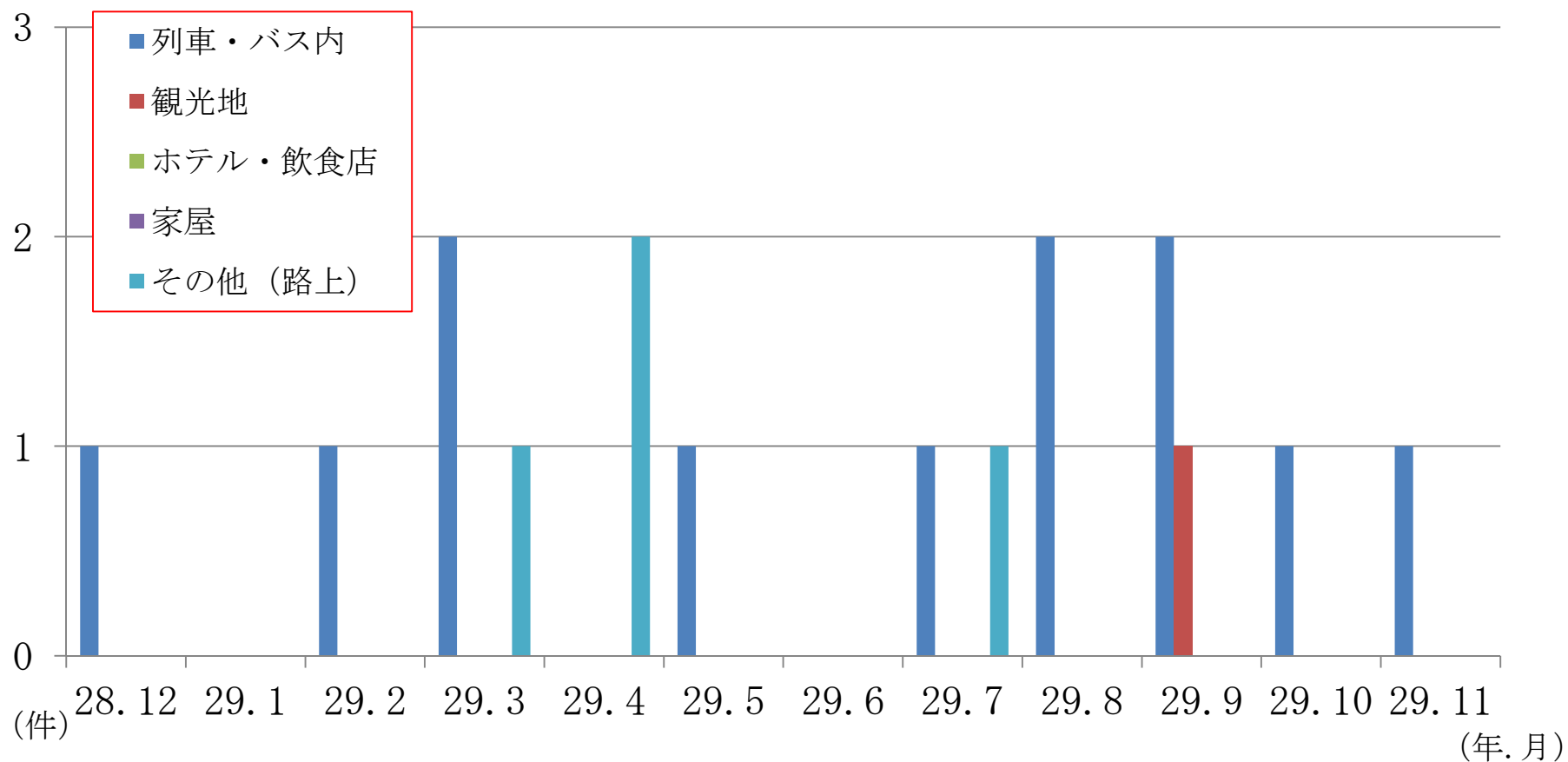
列車・バス内での被害が顕著

場所の種類別【フィレンツェ】



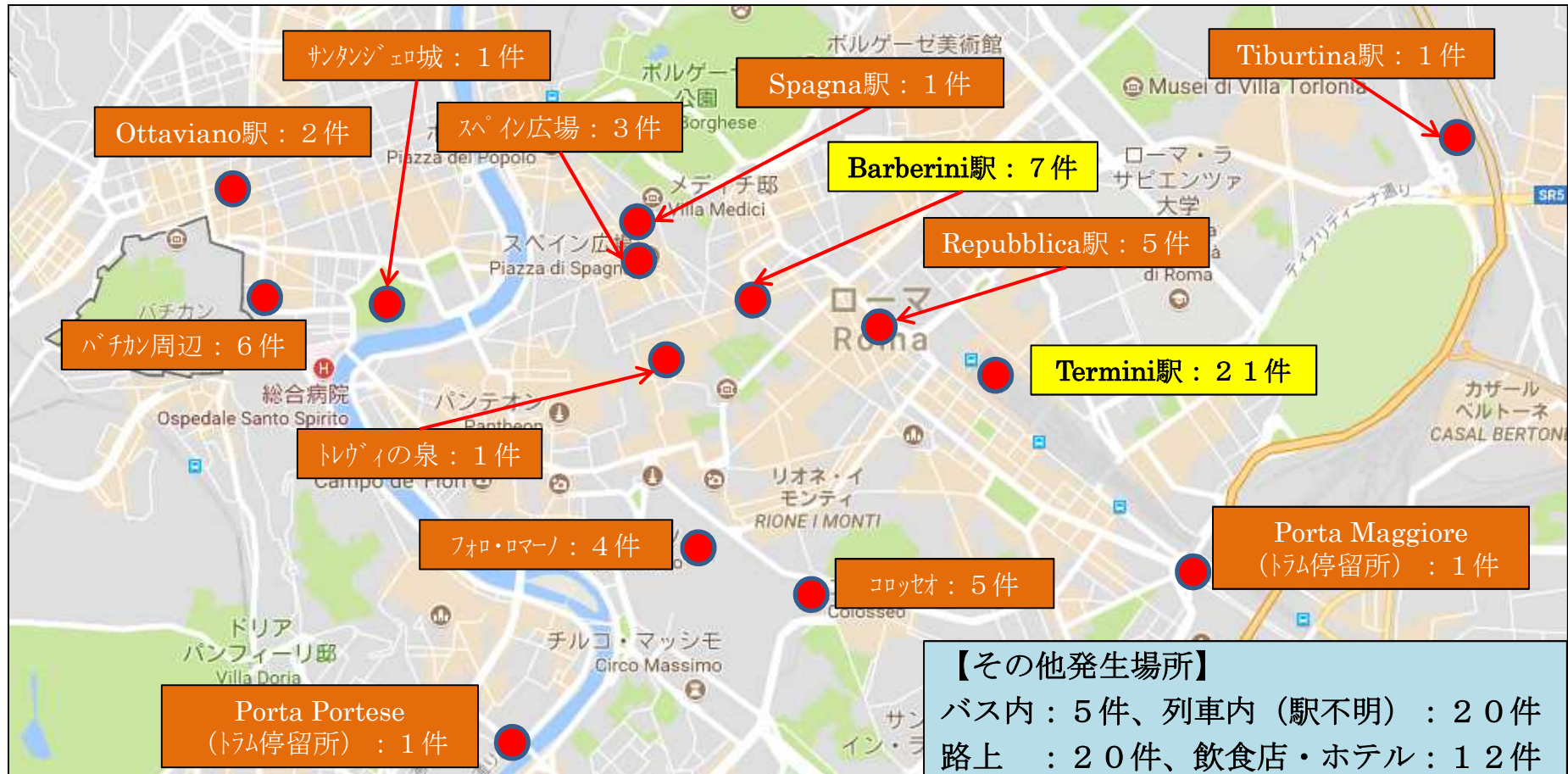
【参考】 顕著な傾向は認められない。

場所の類型別【ナポリ】



【参考】 顕著な傾向は認められない。

地点別【ローマ】



利用者の多い駅（特にテルミニ駅）での被害が顕著
→ 通勤や旅行等で利用の際、要注意

地点別【フィレンツェ】



【その他発生場所】
バス内: 4件、列車内 (駅不明): 2件
路上: 3件、飲食店・ホテル: 9件

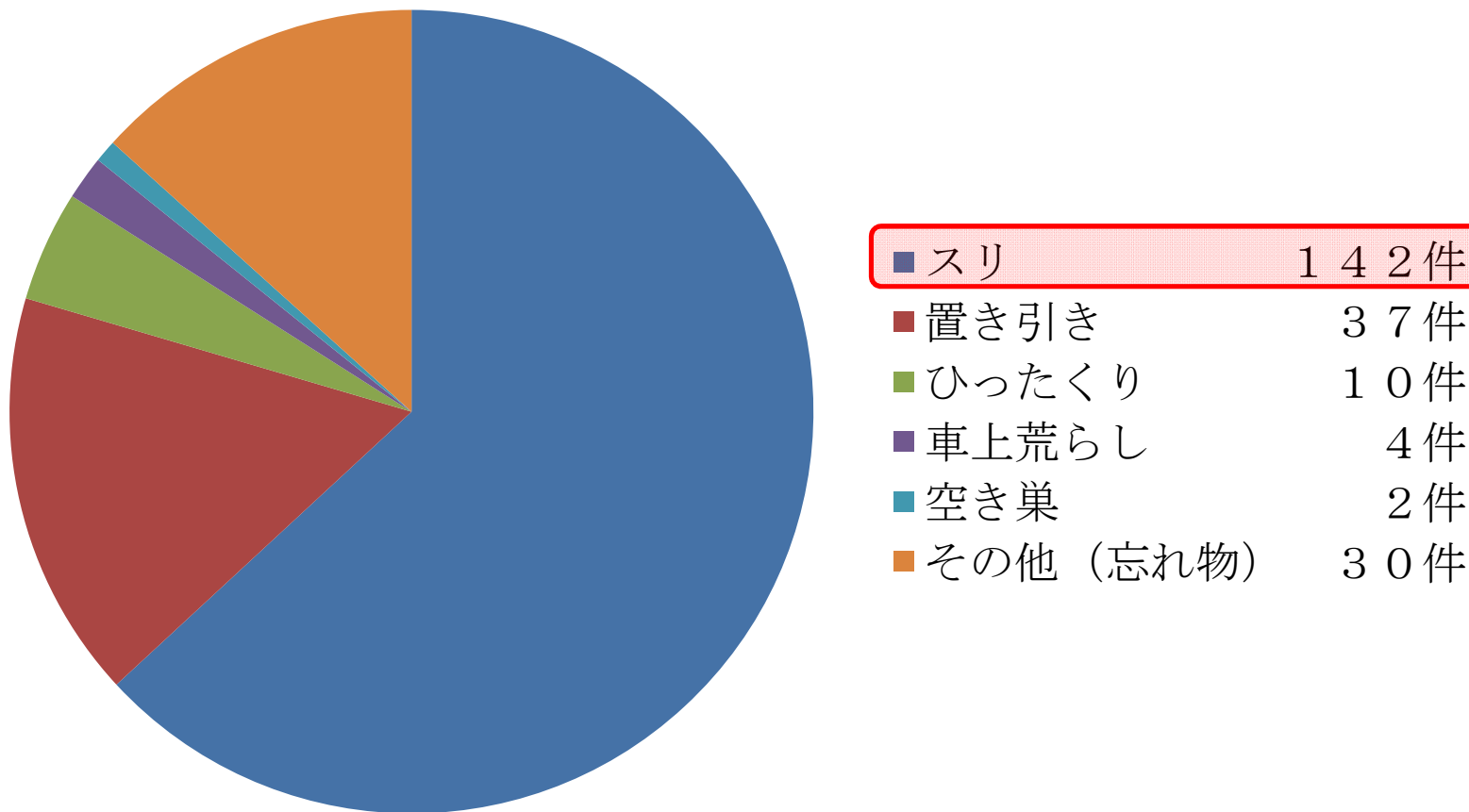
主として人の集まる観光地での被害が顕著

地点別【ナポリ】



利用者の集中する中央駅での被害が顕著
→ 列車移動による旅行の際、要注意

被害形態



全被害の6割強が盗被害
→ 同形態への対策が防犯上、有効

犯罪対策（全体傾向等）

【犯罪頻発場所】

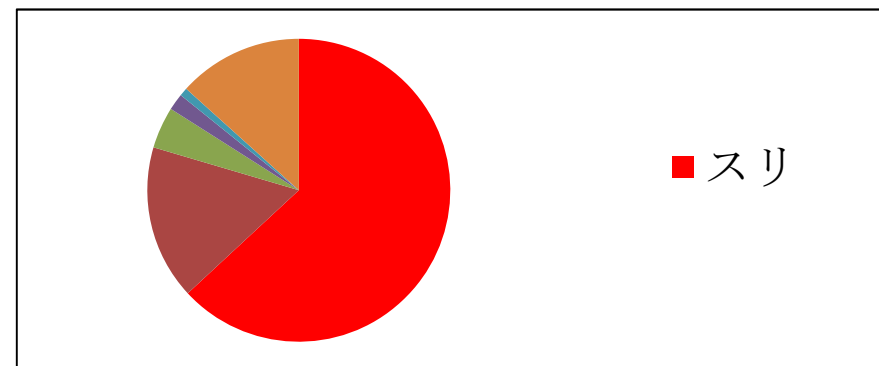
駅周辺

①ローマ・テルミニ駅、②ナポリ中央駅

【頻発被害形態】

スリ

右グラフ参照



全被害形態

①駅周辺での、②スリ対策
に傾注することが防犯上、効果的

スリ対策（ポイント）

【ポイント】

携行品を常に自己の管理内に置くこと

【常に管理内に置くために】

- ①視界内に入れる。
- ②肌に触れておく。



自身の感覚と関連づけることで、
窃取された際、変化に気付くことが可能

犯罪対策①

1 貴重品は、極力身に付けて移動する。

2 バッグ等の所持品は前で抱える。

→ 背後で開けられた場合、気付かない可能性が高い。



3 バッグ等の開口部（ファスナー部分）に手を添える。

→ 何者かが開けようとすれば気付くことが可能



携行品を常に自己の管理内に置く

犯罪対策②

1 被害を**局限**する。

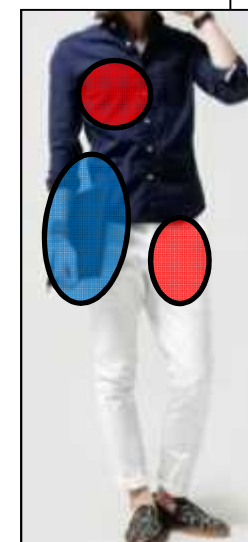
- 不要な額の現金・カードは、自宅で保管
- 貴重品を分散する。（**服装**・**バッグ**内の複数箇所）

2 危険を**避ける**。

- 集団窃盗のターゲットにならないよう行動

【例】

- 混雑した駅構内でのエスカレーター、夜間の一人歩き
見知らぬ人からの質問「〇〇へはどう行けば良いか？」
→ 現地の人に任せる



被害に遭うことを想定し、リスクの分散・回避

トピック (列車内での犯罪対策) ①

1 被害割合

約20% (全件数179件中、「列車内」での被害35件)

※ 全件数：スリ及び置き引き被害の和 (これら以外の被害形態なし)

2 被害場所

(1) スリ : 地下鉄及びその他の在来線 (=短距離移動間)

(2) 置き引き : 長距離移動間 (ローマ～フィレンツェ間の移動等)



3 主な犯行内容

(1) スリ : 背中 のリュックサック又は足元 のカバンから旅券等を窃取

(2) 置き引き : 網棚 又は 隣の座席 に置いたバッグを窃取

駅周辺だけでなく、列車内での被害も認識する必要あり

トピック（列車内での犯罪対策）②

4 被害傾向及び対策①【スリ】

(1) 傾向

発車時、車両入り口付近で窃取されるケースが多い（加害者は乗車せずに逃走）。

(2) 対策

前述の対策を講ずるとともに、入り口付近で留まらない。

5 被害傾向及び対策②【置き引き】

(1) 傾向

仮眠、離席等で荷物から意識が離れた後、「気付く」とこれを窃取されているケースが多い。

(2) 対策

前述の対策を講ずる。特に、キャリーバッグ等の荷物内に重要物品を入れない（被害の局限に努める）。



前述の対策を基本とする。

まとめ

自身の財産を確実に守るためには、

全ての犯罪形態へ対策を講じること

が必要となりますが、被害の現状から、

①駅周辺での、②スリ対策

に傾注することが効果的です。

具体的な対策としては、

貴重品を（分けて）身に付ける・

集団窃盗に遭う可能性のある場所を避ける

といった行動が有効です。